

Bonjour à tous. 受講生の皆さまこんにちは！

2022 年も気が付けばあっという間に半分が過ぎようとしています。すっかり初夏を向かえ、最近では街でも半そでを着た人たちの姿を目にするようになりました。

通信講座でも春学期最後の課題提出が終わり、あとは最後の添削を待つのみとなりましたね。皆さま、今学期も課題への取り組みお疲れさまでした！ほっと一息ついている頃かと思いますが、今回は夏学期のお申込みや日程について詳しくご案内させていただきます！皆さまのお盆休暇などのご都合とあわせて、今後の学習スケジュールを組み立ててみてください。



## ■ 2022年夏学期のお申込みについて

**夏学期のお申込みは、6月11日(土)から始まります！**

夏学期の開講期間：6月27日(月)～9月22日(金)

「アンスティチュ・フランセ東京 オンラインブティック」

<https://tokyo.extranet-aec.com/extranet/#/>

受講コースで使用する教材は、6月中旬以降、申込手続きが完了次第発送します。

「オンラインブティック」ご利用方法がわからない方はこちらをご参考ください。↓

<https://www.institutfrancais.jp/tokyo/boutique-tutoriel/>



※ 「CVEX エキスパートレベル翻訳 仏文和訳」は、夏学期は開講いたしません。仏文和訳をご希望の方は「CVEA 上級レベル翻訳 仏文和訳」をお試しください。

※ 音声教材はパソコンやスマートフォンから、学習用プラットフォームより試聴していただけます。CD/DVDをご希望の方は、通信事務局までメールでご連絡ください。

## ■ 夏季休暇について

通信事務局夏季休暇：8月6日(土)～8月22日(月)

## ■ 夏学期の課題提出日について

課題1 提出日：7月5日(火) 必着

課題2 提出日：7月19日(火) 必着

課題3 提出日：8月2日(火) 必着

課題4 提出日：8月23日(火) 必着

課題5 提出日：9月6日(火) 必着

上記の日程は変更が生じる場合もあります。必ず教材に同封の「夏学期 答案締切日表」でご確認ください。



## ■ 課題送付先のご登録の住所について

住所変更をされた方や修正したい方は、オンラインブティックをログイン後、「マイアカウント」のページから登録情報の変更が可能です。また、郵便番号や建物名、部屋番号が記載されていないと発送物が届かない可能性もあるため、建物名等がしっかりと記載されているかお申込み前に改めてご確認をお願いいたします。

Vous avez sans doute remarqué récemment des graphies telles que :

*les étudiant-e-s sont arrivé-e-s*

*un-e directeur-trice*

Ces nouvelles manières d'écrire sont souvent appelées *écriture* ou *orthographe inclusive*.

Pourquoi ces graphies ? Le français n'ayant que deux genres, masculin ou féminin, la question du genre grammatical se pose dans le cas d'une indétermination du sexe : soit quand on ne connaît pas le sexe d'un individu, soit dans le cas d'un groupe mixte. L'usage est alors d'accorder au masculin.

Cet usage est parfois résumé par l'expression « le masculin l'emporte sur le féminin » ; en réaction à cette perception « sexiste » de la grammaire, certains usagers de la langue demandent que le genre grammatical féminin apparaisse à égalité avec le masculin : la lutte sociale pour l'égalité des sexes se transporte dans le champ de la grammaire.

À ce titre, l'écriture inclusive est parfois confondue avec une autre tendance, la féminisation des noms de profession. Nous l'avons évoqué récemment avec le mot *autrice*. Il convient cependant de différencier ces deux sujets : ici, le sexe de la personne est connu, il est donc tout à fait normal de créer à cet usage un mot féminin s'il n'existe pas. Il est un peu étonnant, voire risible, qu'on puisse encore se dire choqué par le titre de *Première Ministre* donné à Mme Borne.

L'écriture dite inclusive est en revanche plus controversée. Le problème principal est qu'elle est une convention purement graphique et ne peut pas être lue à haute voix : *un-e directeur-trice* est censé être lu « *un directeur ou une directrice* ». Cela gêne la lecture : la « petite voix » intérieure, que nous entendons dans notre tête lors d'une lecture silencieuse, butte sur ces graphies. Rien n'empêche donc de simplement écrire comme cela doit être lu : *un directeur ou une directrice*.

近頃、「les étudiant-e-s sont arrivé-e-s(学生たち一男一女は到着した)」、「un-e directeur-trice(男-女-ディレクター)」ように書かれた語に気付いたかもしれません。こうした新しい書き方は、「écriture inclusive」または「orthographe inclusive」(包括書法とか包括的書体)と呼ばれています。

なぜこのような書き方をするのでしょうか？フランス語には男性形と女性形の2つの性しかありません。そのため、個人の性別が不明なとき、男女混合グループのときなど性別が不確定な場合に、文法的な性の使い方の問題が生じます。そして、この場合、男性形を用いるのが常です。



un panneau indicateur à Fontenay-sous-Bois en 2018

これは、「男性が女性に勝る」ということに縮約されることにもなります。この文法上の「性差別主義」的な対応に、多くの話者は、文法上の女性形を男性形と平等に扱うことを要求しています。男女平等を求める社会的闘争は、文法分野にも及んできているのです。

男女平等という名目で、包括書法は、もう一つの傾向である職業名の女性化としばしば混同されます。「autrice (女性著者)」という言葉についてすでに前のニュースレターでお話しましたね。ただし、この2つのテーマは区別するほうが適切です。職業名の女性化の場合、個人の性別がわかっているので、女性形がなければ、女性形を作ることはごく当然のことです。ボルヌ首相の肩書が「Première Ministre」と書かれたことに、今だにショックを受けている人がいるということは、ちょっと驚きで滑稽でさえあります。

他方、いわゆる包括書法という書き方は、かなり議論の余地があるところでは。最大の問題は、それがもつぱら綴り上の取り決めであり音読できないということです。un-e directeur-trice は、un directeur または une directrice として読まれることが前提です。黙読する際、頭の中で聞こえる「内なる声」が、このようなスペルにつまずくと、読書を妨げてしまいます。したがって、シンプルに un directeur ou une directrice と読めるように書いても何の支障もありません。